

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

12 経験を①する

読書を必要とする意見の根拠として、読書をするよりも体験することが大事だという論がある。これは、根拠の無い論だ。体験することは、読書することとまったく矛盾しない。本を読む習慣を持っている人間が多くの体験をすることは、②まったく難しくはない。むしろいろいろな体験をする動機づけを読書から得ることがある。

たとえば、藤原新也のアジア放浪の本『印度放浪』朝日新聞社、など）を読んで、アジアを旅したくなる若者がいる。本に誘われて旅をするというのはよくあることだ。あるいは考古学の本を読み、実際に遺跡掘りの手伝いに行く者もある。読書がきっかけとなって体験する世界は広がってくる。

それ以上に重要なことは、読書を通じて、自分の体験の意味が確認されるといふことだ。本を読んでいて「③考える人がここにもいた」という気持ちを読むことは多い。まったく生まれも育ちも違うのに、同じ考えを持っている人に出会うと、自分の考えが肯定される気がする。自分ではぼんやりとしかわからなかった自分の体験の意味が、読書によってはっきりとすることがある。「あれはこういう意味だったのか」と※腑に落ちることが、私は読書を通じてたくさんあった。暗黙知という言葉がある。自分ではなかなか※意識化できないが、意識下や身体ではわかっているという種類の知だ。※言語化しにくいけれども何となくからだでわかっているよ

うな事柄は、私たちの生活には数多い。むしろそうした暗黙知や※身体知が、氷山でいうと水面の下に巨大にあり、その氷山の一角が明確に言語化されて表面に出ている、という方がリアリティに即しているだろう。本を読むことで、この暗黙知や身体知の世界が、はっきりと浮かび上がってくる。自分では言葉にして表現しにくかった事柄が、優れた著者の言葉によってはっきりと言語化される。こうした文章を読むと共感を覚え、線を引きたくなる。

「自分ひとりの経験ではなかったのだ」という思いが、自分の生を勇気づける。自分をつくっていくためには、現在の自己を否定して、より※高次の自分へと進んでいくことももちろん必要だが、私の実感では、自分を肯定してくれる者に出会うことによって、すっきりと次に進むことができるように思う。体験すること自体が重要なのではなく、その体験の意味をしっかりと自分自身でつかまえ、その経験を次に生かしていくことが重要なのだ。体験の意味を深め、経験としていく。その積み重ねに、本は役立つ。優れた著者が自分と同じ経験や意見を述べてくれていると、安心して自分を肯定できる。自分に都合のいい著者ばかりを選んで読むというのは、狭い読書の仕方のように思われるかもしれないが、読書を始めた頃はとくに、④共感を持って読める本の方が加速する。

読んでいると「そうそう、自分も実はそう考えていた」と思うことがよくあるが、多くの場合、そこまで明確に考えていたわけではない。言われてみると、それまで自分も同じことを考えていたと感ずるということだ。しかし、この錯覚は問題ない。あたかも自分が書いた文章のように他の人の書いた

たものを読むことができるというのは、幸福なことだ。

なぜこの著者はこんなにも自分と同じような感覚を持っているのだろうか、あるいは、まさにこれは自分が書いたもののようなと感じることさえ、私の場合あった。

自分の経験と著者の経験、自分の脳と著者の脳とが混じり合ってしまう感覚。

これが、読書の ※醍醐味だ。これは自分を見失うということではない。一度自分と他者との間に本質的な事柄を共有するというのが、⑤アイデンティティ形成の重要なポイントだ。自分ひとりに閉じて内部で循環するだけでは、アイデンティティは形成されない。他者と本質的な部分を共有しつつ、自己の一貫性をもつ。これがアイデンティティ形成のコツだ。

読書は、自分の経験を確認しやすい行為だ。すでに言葉として紙の上に定着している言葉は、生まれては消えていく体験に形を与える。⑥自分に引きつけて読む」という読み方は、客観的とは言えないが、読書のある時期には必要なことでもある。自分の生き方を肯定してくれるような著者を探し、自分自身を勇気づけていくことは、自己形成の ※プロセスとして有効だ。危険なのは、それが一人に限定して狭くなってしまう場合などである。何人もの著者を自分の経験を確認させてくれる人として持つことができれば、狭い思いこみも徐々に広げられていく。ある程度わかっているつもりのことでも、はつきりと文字にして表現されることで、確認をすることができる。認識を定着させていく上で、読書による経験の確認は、意外に大きな意味を持っている。

ユダヤ人であるために強制収容所に入れられ、死の直前まで追い込まれたフランクが、希望を見失わずに生きる意味と活力を見出し続けた記録が、この本だ。その極限状況に比べれば、自分の不幸や不運などは取るに足らないことだと素直に思えた。『わがいのち月明に燃ゆ』（林尹夫著、ちくま文庫）、『きけ わだつみのこえ』（岩波文庫）などの ※学徒出陣を描いたものも同様だ。死に向かいつつもなおかつ勉強し続けるその姿勢に ※鼓舞され、勇気づけられた。

単純に慰められたり、優越感を持ったりといった感情ではない。むしろ彼らの大きな経験の中に自分の経験を溶かし込み、自分の経験の意味をいわば昇華させるのである。自分自身が収容所に入れられたわけでも、学徒出陣をしたわけでもないが、そうした境遇のかけらでも自分のからだの中に入れているという感覚だ。

自分の体験や経験を絶対の根拠としたがる傾向が、読書嫌いの人には時々見受けられる。こうした自己の体験至上主義は、狭い見を生む。

経験していないことでも私たちは力にすることができる。

自分の中に微かにでも共通した経験があれば、想像力の力を借りて、より大きな経験世界へ自分を潜らせることができる。自分の狭い世界に閉じこもって意固地になったり、自分の不幸に心をすべて奪われたりする、⑧そうした狭さを打ち砕く強さを読書は持っている。

（齋藤孝『読書力』より）

13 辛い経験を乗り越える

生きる力は、自分を肯定するところから生まれてくる。※少年院関係者の話によると、少年犯罪を起こす者のほとんどが、幼い頃からあまりほめられた経験がないということである。ほめられるということは、自己を他者から肯定されるということだ。肯定が積み重なれば、自分がこの世に存在することに自信を持つことができる。

それが生の活力になる。自分と同じ経験、同じ考えを持つ著者と巡り会うことで、肯定されるだけでなく、自分よりも辛い経験が書かれている本を読むことで、落ち着いて自分を見直すこともある。

たとえば、失恋をするとか、親しい人を亡くすとか、試験に落ちるといった辛い経験をしたとする。それと同じような経験をもっと悲惨な形で経験した者の本を読むと、自分の経験などは大したことはなかったんだと慰められる。自分の経験を唯一絶対のものだと思いう気持ちから離れることができる。「自分だけが悲惨なのだ。周りの者は自分のような境遇はわかりはしない」と、周りの狭い世界だけを見て決めつけると、精神的に追い込まれてくる。自分と同じどころか、より辛い運命にさらされた人がある、そして、それを乗り越えて生きているということを知るだけで、活力が湧いてくる。

私は、高史明の『生きることの意味』（ちくま文庫）を読むと、⑦辛い気持ちになる「方で元気が湧く。もっと極端な例を出せば、フランクの『夜と霧』（みすず書房）を読んだときは、自分のそれまでの辛い経験などがすべて吹っ飛んだ気がした。

（注）

※腑に落ちるⅡなるほどと思える。

※意識化Ⅱはつきりと気づくようにすること。

※言語化Ⅱことばにすること。

※身体知Ⅱからだでわかっていること。

※高次Ⅱ程度の高いこと。

※醍醐味Ⅱほんとうのおもしろさ。

※プロセスⅡ手順。方法。

※少年院Ⅱ事件を起こした少年を更生させるために教育するところ。

※学徒出陣Ⅱ太平洋戦争で学生・生徒が軍隊に入り戦争に行ったこと。

※鼓舞Ⅱはげますこと。

なお、本文中の「12」「13」は見出しの番号である。

問一 本文前半の内容をまとめた見出しの①に当てはまる語句を本文中から漢字二字で抜き出さない。

問二 傍線部②「まったく難しくはない」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 読書は、本の中の世界を自分で実際に体験するきっかけとなるから。

イ 読書を通して、さまざまな世界を自分が体験した気分になれるから。

ウ 読書そのものが、読み手にとって世界を広げる貴重な体験となるから。

問五 傍線部⑤「アイデンティティ」の本文中における意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分を最優先にすること。
- イ 自分が相手に共感すること。
- ウ 自分が自分らしくあること。
- エ 自分の行いを反省すること。
- オ 自分の考えを変えていくこと。

問六 傍線部⑥「自分に引きつけて読む」とありますが、それはどのような読み方ですか。本文中から三十字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問七 傍線部⑦「辛い気持ちになる一方で元気が湧く」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 困難を乗り越えた経験をした著者の本を読むことで、自分自身の辛い気持ちの原因がはつきりとわかるから。
- イ 生死にかかわる経験をした著者の本を読むと、自分の辛い経験と比較して著者への優越感が得られるから。
- ウ 希望を見失った経験談を読むことで、自分が意識していなかったさまざまな思いが湧き上がってくるから。
- エ 大きな困難にさらされた経験談を読むことで、自分自身の抱えている困難が小さなものに感じられるから。
- オ 違う時代を生きた他者の経験談を読むと、自分自身の

エ 読書は、自分が実際に体験したこと以上の成果を得られるものだから。

オ 読書を通して、自分がこれまで体験してきたことが思い出されるから。

問三 ③に当てはまる言葉を五字で考えて答えなさい。

問四 傍線部④「共感を持って読める本の方が加速する」とありますが、ここから読み取れる筆者の読書に対する考え方として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 読書において大切なのは、著者の考えを否定的にとらえるのではなく、積極的に理解しようとする姿勢である。
- イ 読書において必要なのは、本の内容を確実に理解する能力よりも、速いスピードでたくさんの本を読む技術である。
- ウ 読書において大切なのは、読んで得た知識をもとに自分の考えを深め、他者と異なった意見を生み出すことである。
- エ 読書において必要なのは、興味がある分野の知識を多く身につけ、専門的な内容を細かく理解できる能力である。
- オ 読書において大切なのは、自分と同じ考えの著者と出会うことを通して、自分自身の体験を受け入れることである。

世界が広がり人生が豊かになっていく感覚になるから。

問八 傍線部⑧「そうした狭さを打ち砕く強さを読書は持っている」とありますが、ここで述べられている読書の「強さ」とは何ですか。五十五字以内で答えなさい。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

父親である「僕（村田）」は、息子と一緒に漫画『ピーナッツ』を読み、自分の少年時代を思い出している。

※チャリー、教えてくれないか。きみはなぜ野球チームの監督になったのだろう。

チームの①ソウセツ者だから？ メンバーに推薦されて？ それとも、自分から立候補したのだろうか。

僕も監督になった。五年一組イーグルス。オールスターの最強クラスにふさわしい、カッコいい名前だ。だが、その名前を決めたのは監督の僕ではなく、キャプテンのカネさんだった。チャリーのチームにキャプテンはいったつけ。もしもいたのなら、チャリー、その子は監督のきみよりも偉かったのだろうか。

僕は、監督はチームでいちばん上だと思っていた。だが、①僕たちのチームはそうではなかった。学級委員がリーダーではないのと同じだ。

イーグルスには、十五人のメンバーがいた。野球がうまい順に九人がレギュラー、十番目から十五番目までが補欠——僕は十三番目だった。

「だってしょうがないだろ」

キャプテンのカネさんは、レギュラーの打順とポジションを決めたあと、しょんぼりする僕に言った。

「去年の球技大会、おまえ三組のピッチャーだったけど、全然ストライク入らなかったし、球も遅かったし、打っても外野まで飛ばないし……おまえなんか三組だったから、いばってられたんだよ」

いばっていたつもりはない。だが、カネさんの言うことは確かにそのとおりだった。エースの座も、四番打者の座も、僕は自分から「オレがやるよ」と言って、「反対意見あるひとはい、いない、じゃあ決まりね」とポジションを取ったのだ。カネさんはクラスでいちばん背が高い。だから、背の低い順に並ぶと真ん中よりだいたい前になる僕を、見下ろしてしゃべる。

「最強軍団だよ、イーグルスは」

「うん……わかる」

「五年生だと相手にならないよ」

「……だよ」

「でも、オレら、六年生やほかの小学校とも試合しようと思ってるから、おまえ、あんまり出しゃばるなよ」

指でピンとはじき飛ばすように言われた。

カネさんたちの「オレら」に、「おまえ」は入っていない。それが悔しくて、だから逆に頬をへっつとゆるめて、「べつに

出しゃばってないけどなあ、オレ」と首をかしげた。

「なに言ってるんだよ、出しゃばってるだろ、いつも。はいはいはーい、僕がやります、はいはいはーい……」

手を挙げる身振り付きでからかわれた。「はいはいはーい」と繰り返しながら、②あざけるような目で顔を覗き込まれた。

今度の悔しさは、もう薄笑いではごまかせなかった。

「やめろよ」と言った。マンガの主人公みたいに相手をびくつとさせるつもりだったが、僕の声はやっぱり、自分が思っているほどすごみはなかった。

「はあ？ なに？ なんか言ったかあ？」

とぼけて訊くカネさんの声のほうがずっと怖い。

「……ふざけんな」

せいっぱい声を低くして、詰め寄った。

カネさんも舌打ちして、自分からさらに距離を詰めてきた。背丈が違う。体のたくましさも違う。カネさんが壁のように見えて、そう見えてしまう自分が悔しくてたまらなくなった。

少し離れたところで話を聞いていた江藤が割って入り、

「やめろよ」と僕に言った。「どうせやっても負けるんだから」

③悔しさが悲しさに変わった。泣きそうになるのを必死にこらえていたら、江藤が言った。

「だったらさ、村田、監督やってくれよ。おまえ学級委員だし、そういうの好きだろ？」

首を横に振る前に、機嫌を直したカネさんが「そうだよ」と笑った。「監督、カッコいいじゃん」

④心が動いた。動くなよ、そんなので喜ぶなよ、と胸の奥から小さな声が聞こえたような気がしたが、このままだとただ

の補欠なんだから、とその声を振り払って小さくうなずいた。

「じゃあ決まりな、村田監督、けってーい」

カネさんの言葉にもう一度うなずいた。

すると、カネさんは顎をしゃくって言ったのだ。

「じゃあ、今日の昼休みから練習するから、場所取りしろよ。バックネットの前だぞ、六年生に取られるなよ」

「……一人で？」

「監督なんだから、おまえがやるの当然だろ。場所が取れなかったら、村田の責任だからな」

カネさんは江藤をトイレに誘って、二人で廊下に出て行ってしまった。歩きながら、江藤がカネさんに言った。あんまりいじめてやるなよ、かわいそうだろう——声は聞こえなかったが、口の動きでわかった。

僕は⑤監督の仕事を※一所懸命やった。悔しさや悲しさや納得のいかないところはあっても、なにも言わずにがんばった。

昼休みは、給食が終わると一息つく間もなくダッシュしてグラウンドに出た。バックネットの前のいちばんいい場所を取って、みんなが来るのを待った。六年生に文句を言われても絶対に譲らなかった。

一度、六年生の奴らに囲まれて、小突かれたこともある。怖かった。だが、僕は場所を守り抜いた。脅しに負けなかった。勇気をふるって——というのとは、少し違う。「勇気」や「努力」は、こういうときにつかう言葉ではない。カネさんに怒られたくないからがんばったのでもない。僕は僕のために

んばった。おとなになった僕が言葉をあてはめるなら、それは「意地」がいちばん近いだろう。

みんながグラウンドに出てくると、昼休みの場所取りの仕事は終わる。試合に②ソナエで※シートノックやバツティング練習をする選手たちに場所を譲って、僕は監督としての次の仕事にとりかかる。

グラウンドを見渡して、五年生の別のクラスの連中を探し、駆け寄って声をかける。

今度、ウチのクラスと試合やらない——？

「ウチのクラス」の代わりに「オレら」と言うこともあった。そのたびに、なんだか嘘をついているような、嘘ではなくても大事なことをごまかしているような、⑥背中がもぞもぞする居心地の悪さを感じた。

試合相手を決めると、僕はまたチームのもとへ戻る。みんなの邪魔にならないように隅っこのほうに立って、練習を見守る。僕は監督だから試合には出られない。試合に出られない奴は練習にも参加できない。外野を越えたボールが、六年生の使っているスペースに転がっていった。邪魔をされた六年生が怒っているのがわかる。外野を守る武藤と荻原が拾いに行くと、六年生に呼び止められ、文句を言われた。僕の一番だ。監督の仕事だ。もめているところに駆け寄って、チームの代表として謝る。武藤と荻原には、いいいいいよ、ここはオレがやるから、早く戻って練習しろよ、と言って、六年生に、ごめんなさい、ごめんなさい、と頭を下げる。そういうときには、カネさんも僕のことを「出しゃばり」とは呼ばない。

チャーリー、監督というのは大変だな。きみは監督なんてもうやめちゃおうと思ったことはないのか？ きみのマンガには、監督がぺこぺこ頭を下げる場面は出てこない。作者はきっと優しいひとなのだと思う。

(重松清『再会』より)

(注)

※チャーリー＝シュルツ作の漫画『ピーナッツ』の登場人物、チャーリー・ブラウンのこと。いつも負けてばかりの野球チームの監督をしている。

※一所懸命＝熱心にながめる様子。一生懸命。

※シートノック＝野球の練習方法の一つ。

問一 傍線部①「僕たちのチームはそうではなかった」とありますが、どういうことですか。「監督」「キャプテン」という語句を使って三十文字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「あざける」とありますが、ここではどのような意味で使われていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えが正しいと相手に思わせる。
イ 相手を弱いものと決めつけて指図する。
ウ ばかにして悪く言ったり笑ったりする。
エ 愛着のある相手に余計な口出しをする。
オ 同じことを何度もくり返して念を押す。

問三 傍線部③「悔しさが悲しさに変った」とありますが、ここでの「悔しさ」と「悲しさ」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア いつも出しゃばっているとカネさんに決めつけられた悔しさと、カネさんを前にするとおびえて何も言えなくなってしまう悲しさ。

イ 中心的な役割には必ず立候補してきたことをカネさんにかかわれた悔しさと、カネさんにいくら対抗しようとしてもかなわない悲しさ。

ウ すぐみをきかせてカネさんに詰め寄ったのにとぼけた返事をされた悔しさと、割って入った江藤がカネさんの味方だと気づいた悲しさ。

エ 身振りをカネさんにくり返しまねされたことに対する悔しさと、どんな反論をしても自分は試合に出場させてもらえないという悲しさ。

オ レギュラーと補欠を平等に扱わないカネさんの言動に対する補欠としての悔しさと、カネさんを注意することを江藤に止められた悲しさ。

問四 傍線部④「心が動いた」とありますが、このときの「僕の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 本心では監督の仕事は嫌なのに、このままただの補欠でいるよりはましだと自分を納得させている。

ア 責任ある役割を与えられたことで、自分が認められたという喜びを感じた。

イ 嫌な仕事もやりとげて、チームのために尽くしたいという思いが芽生えた。

ウ 努力するうちに自分が監督に向いていることに気づき、大きな自信になった。

エ 大変なことがあっても、自分のためにやり抜こうとするねばり強さが生まれた。

オ 友人関係で悩んだときでも、相手を思いやって折り合いをつけることを学んだ。

問八 本文の表現についての説明として適切なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 野球のプレーを具体的に描くことで、それぞれの場面に緊迫感が生まれている。

イ 会話文に子どもの口調を用いることで、作品全体に明るい雰囲気生まれている。

ウ 短文を取り入れることで、話の展開がテンポよくわかりやすいものになっている。

エ 複数の登場人物の視点から述べることで、子ども同士の関係をはっきりさせている。

オ 心のつぶやきを描くことで、主人公の少年時代の複雑な心情の変化を表している。

問九 傍線部①「ソウセツ」②「ソナエ」のカタカナを漢字に直しなさい。必要な場合は、送りがないをひらがなで書きなさい。

イ 体格も野球の実力も負けているのに、監督になることでカネさんを見返すことができると思奮している。

ウ 何でもやりたがる性格をからかわれた直後なのに、監督になってカネさんに認められたいと思っている。

エ チームの一員として認められていないとわかったのに、監督という言葉のもつ雰囲気（ふんき）に心ひかれている。

オ 学級委員としては失敗してしまったのに、監督という役割を押しつけられて断り切れず困り果てている。

問五 傍線部⑤「監督の仕事」とありますが、「僕」の監督としての仕事は何ですか。適切なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 試合の相手を探すこと。

イ 練習の場所を取ること。

ウ チームの作戦を立てること。

エ 練習の内容を指示すること。

オ チームを代表して謝ること。

問六 傍線部⑥「背中がもぞもぞする居心地の悪さを感じた」とありますが、そのように感じた理由となる一文を本文中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問七 野球チームの「監督」を引き受けたことを通して、「僕」はどのように成長しましたか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

二

問九

①	
②	

受験番号

The diagram illustrates a two-dimensional lattice structure. A central point is labeled 'i'. A bond connecting it to a neighbor is labeled 'b'. A unit vector is labeled 'e'. A distance is labeled 'r'.

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

The diagram shows a rectangular domain with a central square hole. The domain is divided into four quadrants by a vertical line at $x=0$ and a horizontal line at $y=0$. The central square hole is centered at the origin with side length $2a$. The outer boundary is a square with side length $2b$. The inner boundary of the hole is a square with side length $2a$. The domain is labeled with x and y axes, and the boundaries are labeled with b and a .

Figure 1 is a line graph showing the percentage of respondents who believe that the use of force is justified in various circumstances. The Y-axis represents the percentage (0 to 100) and the X-axis represents the circumstances (0 to 100). The graph shows a general upward trend, with the percentage of respondents who believe that the use of force is justified increasing from approximately 10% at 0 to approximately 90% at 100.

